

第4回 旭川市民文化会館の在り方検討会資料

- 1 第1回～第3回会議での意見の振り返り
- 2 大規模改修と建替えの比較

1 第1回～第3回会議での意見の振り返りと分類

第1回～第3回会議で寄せられた意見について、次の4種類に分類した。

(1) 現市民文化会館の現状と課題に関する意見

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

(3) 場所に関する意見

(4) 費用対効果に関する意見

(1) 現市民文化会館の現状と課題に関する意見

分野	意見
① 建物及び設備の安全性	<ul style="list-style-type: none">安全な建物の中で、安心して演奏できる環境を整備することが重要。催事を見に来る利用者にとっては「まだまだ使える施設」という感覚だと思うが、主催者にとってホール設備の老朽化等は、何かあれば命に関わる問題。耐震性能という大きな課題がある。大規模改修では建物の外側が決まっているため、会議室や展示室、ホールの性能といった解決し切れない課題が多数あり、機能的に耐え切れないところまで来ている。
② ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none">建物内のいろいろなところに高低差がある。文化会館は、車椅子で進入できなかつたり、急勾配の斜面だらけで大変。ホールの車椅子の座席数が少なく、自由に席が選べない。トイレにベビーキープ、おむつ交換台がない。建築当時としてはハイレベルな建物だが、現行基準に照らすといろいろな課題が出てくる。トイレをはじめ、時代に即した対応にアップデートしきれていない課題がたくさんある。
③ 機能性 (搬入路・利用環境)	<ul style="list-style-type: none">先進事例に比べ、暗く圧迫感がある。動線が大事で、文化会館は入口が少し狭く、暗いように感じる。搬入口の拡充について、現状の敷地を生かす改修では難しい。

(2) 市民文化会館の今後の整備に関する意見

分野	意見
① 施設全般に関する意見	<ul style="list-style-type: none">・ カフェやストリートピアノを設置する等、気軽に来館できる仕組みを作ることが、催事等で来館するきっかけになる。・ コンサートに関心がない方は、文化会館に来る機会がないのが現実。・ 費用をかけて良かったという実感が得られるよう、普段利用しない方も含め、市民の共有財産として価値を高める整備の在り方が大切。・ 子供たちが行きたくなるような施設であれば、ホールに興味がない家族の子供でも、自分の居場所と思える場所になる。・ 次世代が使いたいものを造ってほしい。・ 日常と非日常の場として両立できれば、とても良い施設になる。・ コンベンションの誘致を考えると会議室は必要。・ 余白の大切さ、日常の使い方の重要さに共感。・ イベント等でフレキシブルな使い方ができる余白スペースがあると良い。・ 仮に建替えの場合、文化会館単独か、他の老朽化施設等の集約・複合的な建替えかは、今後詰めていく必要がある。
② ホール機能に関する意見 (座席の数や配置、 舞台設備機能など)	<ul style="list-style-type: none">・ 中規模ホールで、今後寿命を迎える現公会堂も含めた検討が必要である。
③ 整備手法及び施設運営に関する意見	<ul style="list-style-type: none">・ 建て替えるとしたら、市民も巻き込み、皆でつくり上げる形にできると良い。・ ソフト面が重要。建物が立派でも、ソフト面が安定しないと、箱物行政になる。・ NPO法人や市民と一体となった取組は理想的。・ 税金で建てられる以上、特定の利用者に偏らず、使用方法は平等であるべき。・ 大規模改修で休館期間が発生した場合、興行やイベント等への影響が懸念される。

(3) 場所に関する意見

分野	意見
場所に関する意見	<ul style="list-style-type: none">• 現在地での建替えの検討も良いが、この場所でなくても良いのでは。• アクセスしやすく、集まりやすく、開かれていて、共有できる場所であることを実現している事例は、とても理想的。• コンベンションの誘致を考えると、施設は中心部が望ましい。

(4) 費用対効果に関する意見

分野	意見
費用対効果に関する意見	<ul style="list-style-type: none">• 大規模改修は延命化に過ぎず、実施しても20年後には建替えの必要が生じる。• 大規模改修を実施した場合、現在・将来のニーズにどれほど応えられるか、耐える性能向上になるかがポイント。• 建替えの場合の100億円近い整備費は安くないので、費用対効果がポイント。

2 大規模改修と建替えの比較

※費用は平成26年度に策定された旭川市民文化会館大規模改修基本設計での積算額であり、令和4年度現在の積算額ではない。

項目		大規模改修	建替え
費用（※）		35億円以上（舞台機構の改修費は含まず）	90～100億円以上
場所の選択肢		現在地に限る	市内で選択可（一定の敷地面積が必要）
使用可能年数		20年程度	80年程度 （長期使用建物と位置付け、適切な予防保全を実施する場合）
基礎機能	ホール（座席数、座席の配置等）	<ul style="list-style-type: none"> 現面積内で調整するため、席間隔を広げる場合は、席数の減が必要 座席の配置は基本的に現状のまま 	<ul style="list-style-type: none"> 座席数及び座席の配置は、ある程度自由に設定可能
	バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> 新たにエレベーターを設置することで、小ホール・展示室等へ車椅子でアクセスすることが可能となる 一定の段差解消は可能だが、急勾配等の全面解消など、構造上対応できない点も多い 	<ul style="list-style-type: none"> 現行のバリアフリー基準に適合した設計が可能となる
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 現状に比べて一定の増設が可能だが、施設空間は狭窄化する ウォシュレットは設置困難 	<ul style="list-style-type: none"> 利用実態を踏まえた十分な質・量の整備が可能
	搬入車両スペース及び搬入路	<ul style="list-style-type: none"> 一部改修可能だが、敷地面積が変わらないため、車両の取り回し等に課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地を確保した上で、安全かつ効率的な搬入車両の駐車スペース及び搬入路の形成が可能
付帯機能		<ul style="list-style-type: none"> エントランス・ホワイエを開放 大小ホール・展示室・会議室などの大幅な配置変更は困難であり、新たな付帯機能の整備には制約がある 	<ul style="list-style-type: none"> 付帯機能を検討することにより、ホールの催事以外でも、日常的に市民が訪れることができる施設として造成可能
休館期間		1年～1年半	なし（現地建替えを除く）